

2025年度 サミットアカデミーエレメンタリースクール佐久 自己評価

目指す学校像	教育理念「自由と愛」のもと、児童・生徒一人ひとりが、それぞれの個性が尊重され楽しく充実した学校生活を送ることを通じて、日本人としての資質とグローバルに活躍できるマインドとスキルを兼ね備え、世界の舞台で自分らしく地球に貢献できる人材となることができる教育環境の整備を積極的に推進する。
--------	---

	評価項目	評価(ポジティブの割合(%))			具体的取組状況・成果	課題・改善策
		児童	保護者	教員		
1	学校運営全般	84.1	69.4	該当なし	開校から2年が経ち、児童がリラックスして毎日過ごしている。英語が学べる、友だちと会える、学習ができる、やせに会える、児童が学校を楽しんでいる理由がある。来年度も多様なニーズを包括できるような取組を自由な発想で継続していきたい。 (高学年児童)他の学校では学べない学習をこの学校では学べる。 (保護者)工夫して、授業を行って、子どもの探究心に応えており、質の高い教育を受けられていると感じています。	昨年度の保護者からの満足度78%よりは減少した。その背景には多様な児童がいる中で、子どもの学習機会が保証されているのかという心配と、天井がない施設上のデメリットが心配されていることがある。児童の学習機会の保証は学校として第一義に考えなければならないことであり、自由と無秩序をはき違えない学級運営に努める。施設の改善策については、その他の取り組みとともに、その進捗状況と学校運営者としての考えを発信し、理解の促進に努める。 (保護者)教室同士の音が混ざって、授業が聞こえていない。子供達の集中力と先生の声を守るためにぜひ、策を講じていただきたい。
2	学習指導生活指導	83.5	67.6	92.9	日本人と外国人の担任二人体制の下、イマージョンには英語60%、デュアルランゲージには英語30%以上の英語学習をすすめることができた。今年度は体育の学習に専科教員をつけ、日本語を適宜交えながら英語の理解がすすむようにした。 授業公開を通じた教員研修を実施し、外部講師を招いて指導助言をいただき、授業改善に努めた。外国人教員も同様に授業公開をし、英語の授業について研鑽を深めた。 (低学年児童)サミットでは、日本ごえいごがまなべるからいいとおもいます。 (高学年児童)サミットで日本語の先生と外国の先生がいてあしんする。 (高学年児童)英語が学べたり、英語の先生が毎日いるから英語に触れる機会が沢山あって英語が「前よりも好き」になることが好き!	児童から英語を学ぶことが楽しいという好意的なコメントが多く上がる一方、保護者からはその成果を実感できていないというコメントが散見される。これは、サミットの英語カリキュラムに、学年ごとの到達目標が設定できていないことに起因すると考える。2026年度以降、学年ごとの到達目標を設定し、その目標に対して、児童がどの位置にあるか明確に示せるように改善していく。 (保護者)イマージョン教育で各学年で保護者でどういったサポートが望ましいか、また、何年生でどの程度の英語力を想定・目標としているのか等、目安や指針があるとありがたいと思います。 (教員)we need a more structured curriculum (for English) that flows for each grade, work towards supporting students in both languages for subjects such as math and science as well as have more meaningful training sessions for international teachers.
	児童が体験を通して探究的、問題解決的に学習をすすめることができています。	87.8	71.3	92.9	1学年では動物の飼育、3学年では調理活動を行った。各学年文化祭で探究の成果を発表できるような目標をもって問題解決的に学習に取り組んだ。4学年・5学年では長野県の自然に触れる体験活動、6学年は海外研修など学年に応じて、体験的な学びをすすめることができた。 (低学年児童)ふっつ、学校でたいけん出かけることがサミットでできるのがたのしい、ケーキもやって、イチゴ狩りもできてかき氷も作ったりして、そんないろいろなことできる。学校はいいなと思った。 (高学年児童)まぢせまで仕事体験ができることがいいと思います。 (保護者)学外での自然体験や外部講師のお話など、多様で貴重な学びの機会をいつもありがとうございます!	教科書にない学習内容を取り扱う中で、学年によって取り組み方や熱量に差があった。探究学習と社会見学の校外学習を混同し、児童が自ら課題を見つけて探究する校外学習と違い難い場面もあった。来年度は探究学習のすすめかを教員研修の中核に据え、児童が主体的に興味関心をもった探究学習ができるよう改善をはかる。 (保護者)校外学習の頻度が学年により違う。 (保護者)学校の授業時間だけで優れた学力が身につく、それ以外の自分の時間で自己探究ができるようなことができればもっと子供が輝くと思いました。 (保護者)子供たちに日本の文化、日本の良さを実感できるような機会をたくさん作ってください。
	児童は実態に応じてグループワークや個別指導を選び、協働的に学ぶ環境を得ることができている。	90.2	37.0	85.7	協働型の授業の中に、時に講義形式も織り交ぜながら、学習をすすめることができた。さらに「サミロボ」などの探究の時間においては、ラーニングスクエアにある移動型の机を活用し、自然発生的に小グループが生まれるような児童の姿があった。 (低学年児童)友達(グループ)といっしょ勉強出来るのがいいと思う。 (高学年児童)みんなで協力して授業や物事を進められるところがサミットの一つのいいところでもあると思う。	小グループのさらなる活用が今後の課題である。グループをつくるのが「目的」となっている様子も散見される。意図を持ったグループの構成と、探究における必死に迫られたグループの発生など、教員研修を通してそのアイデアを深めていく。また、英語学習においては、時に少人数での授業を実施するなど、クラス内での英語力の序列が「固定化されないなどの配慮を十分に行なう」が学習のすすめかたを検討する。 (保護者)クラスを分けて授業する取り組みが行われてなく、クラス内のレベルの差が気になっています。
3	生徒指導	82.3	63.9	92.9	日常の指導の中で、「あれをしましょう。」「なにをしてはいけません。」という指導に終始しないよう職員間で意識の共有を行っている。児童発表の行事はその成果の一つと考えている。児童の自由な発想から、ハロウィンやクリスマスパーティなどの全校行事を6年生が中心となって運営している。 (低学年児童)授業として、原を自分たちで決めてみたいです。 (高学年児童)クラブや委員会を自分たちで決められる所が良い。	ときに教員からの指導において「ルールだから」という理由付けをしていることも皆無ではない。そのルールを自分たちでつくったり変えたりできるような児童を育てているよう、生徒指導に関連する職員研修も合わせて実施する。 (保護者)イベント等では、もう少し自由に自分達で考えて行動する機会を与えてあげてもいいのではないかと思います。 (保護者)自由に探究的な教育を目指している一方で、問題が発生した時の対応が従来の日本型のような公平であることに重きを置いた対応方法だったというので、先生方のマインド教育も大切だと思いました。
3	学校での活動を通して、児童が豊かな人間関係をつくる事ができている。	98.2	54.6	85.7	前述の全校行事を通して、児童同士のつながりをひろげることができている。ハロウィンにおける仮装大会では、3年生と4年生の連合チームが出場するなど、学年を超えた人間関係ができている。人間関係づくりの一助として、今年度よりよりよい学校生活にするためのアンケートを児童向けに毎学期行った。アンケートをもとに、担任と児童との教育相談を行い、児童同士の良好な人間関係の構築に努めた。 (低学年児童)いろいろなイベントがあって楽しくたくさんの人と交流出来る。	「行事だけでなく、学習の中でのつながりもひろげていきたい。授業の中で教え合い、学び合いがあったり、学年間交流があったりすることを来年度は仕掛けていく。また施設一にする中学校とのつながりをもっともような機会を創出する。 (低学年児童)交流して他の、13456年生とふれあいの授業が欲しい。 (保護者)相手や思いや愛や表現の自由は最もですが、言動が自由すぎ限度を超えている点も多々受け取られます。その点では成長段階の大切に時期にしっかりと指導していただきたいです。
	児童の問題行動が起こった際には、組織的に迅速に対応することができている。	該当なし	52.8	92.9	「児童180人を教員全員でみる」ことを合言葉に教員全体で生徒指導に関わることに取り組んだ。職員会議の冒頭の時間を生徒指導に関連する共有の時間にあて、それぞれで起こった問題を全校で共有し、児童の現状や今後の対応について教員全体で検討した。 (低学年児童)サミットで日本語の先生と外国の先生がいてあしんする。 (教員)全体が全校を見ることがいいと思います。その良さを生かし、教職員間で意識的に情報共有し、協力し合える体制を心掛けていきたいと思ます。	生徒指導への関わりについて日本人教員が中心となっている。児童の現状の英語力に起因する部分はあるが、外国人教員も担任する児童の生徒指導について責任を共有し、学年で児童の支援を行う。もちろんそのために、日本人教員からの定期的な働きかけとコミュニケーションは欠かせない。 (保護者)問題行動をした子どもとご両親に対する指導と報告をしっかりとっていただけたらと安心した学校生活が送れると思います。
4	保護者連携地域連携	該当なし	72.2	100	児童の体験的な活動において、多くの保護者の方にご協力をいただくことができた。1学年や3学年の調理活動など、低学年では危険な作業も安心して行うことができた。今後も広く保護者に協力を求めたり、保護者が児童とともにやってみようという機会を多く取り、コミュニケーションとしての学校の発展をすすめていく。 (保護者)先生方と親との接点も多くあり、問題が生じた時も早くも連携し、対応できていることに安心感を抱いておます。 (保護者)児童の教育のために地域社会との関わりをもつべきだという時機に、協力できることがあれば積極的にサポートしたい。	保護者にひらかれた学校を目指しつつも、28%の保護者はそのように感じていないことから、さらに工夫を凝らして、定期的に行ったサミット対話会・開催曜日の工夫、保護者懇談会の回数の増加など、多様な家庭背景を包括できるように対話の機会を設けていく。 (保護者)参観日後の保護者の懇談会の頻度を増やしていただきたいです。保護者同士が知り合う、保護者と先生が意見交換する場が増えると、学校に対する協力関係が構築しやすくなると思います。
	幼小連携や小中連携など、児童の成長の縦のつながりを意識した取り組みをできている。	77.4	70.4	85.7	1学期には1学年が在籍していた幼稚園、保育園との連絡協議会を行い、児童の小1プロブレムを未然に防ぐよう情報交換を行った。また、低学年の佐久幼稚園訪問など、児童が年長者として自信を持つような機会をつくった。 佐久長聖中学校とは、文化祭や体育祭を共同で開催し、先輩たちの取り組み姿を学校行事を通して見ることができた。そこでできたつながりが日常の会話にもなり、中学生と話す姿があった。 (低学年児童)中学生や他の学年との交流が楽しい。	6年生が佐久長聖中学校の体験授業に参加し、次年度の自分の姿をイメージすることはできた一方、他学年が中学生と関わる機会はない。結果として佐久長聖中学生としての未来の自分の姿を描けないことから、他校を選択する6年生が数多い。数年後の自分をイメージできるような児童と生徒の関わりを創出していきたい。 (低学年児童)1〜6ねんせいにもっとあじかんがあったらいい。幼小交流会は、佐久幼稚園だけじゃなくて小雀保育園もいきたいです。 (保護者)中学が併設されていることが特徴のひとつであると思うので、もっと中学生との関わりが多くなればより良いのではと考えております。
5	学校安全	86.6	57.4	100	2025年は2回の避難訓練を実施し、それぞれ火災と地震を想定しての緊急時の行動を確認した。外部講師を招いての交通安全教室や情報モラル教育など、多様な取組みを行った。 来校者への配慮を学校全体で見直し、保護者には保護者カードを配り、来校者には来校者カードを渡し、来校時には携行してもらうことを周知した。校門の開閉時間を見直し、登下校時は開閉、児童が在校時には開閉するなど来校者への対応を行った。	保護者から施設に関する安全面の意見があり、ポジティブな評価が57.4%となっている。設備の充実と運用の法制化に努め、児童の安全に配慮した運営管理を継続していく。 (保護者)学校の防犯対策について強化していただきたいです。特に、不審者侵入防止策や出入口の管理が必要だと感じます。